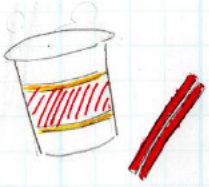




感想

取材を通して、今日まで起きていること、世界で起きていることをよく分かりました。私は、普段、国際問題に目を向ける機会は何となくありましたが、そこまで深く考えることはありませんでした。しかし、今回取材をしたことにより、フードロスによる問題などについて深く知ることができました。例えば、世界で廃棄される食品の量は、約1億トン、つまり一人当たり一日お茶碗一杯分捨てられていることになりました。生産量は約4億トン。これだけ生産されても半分は捨てられるため、開発途上国にいらる子どもたちは食べることを削がされます。普通なら、世界中の人全員が平等に分け与えられ、食べられるはずですが、捨てられてしまいます。なら食べ物を買付すればいいと思いますが、持続的に続けられるわけがないです。なので、自分たちの責任を少しでもやっつけて環境づくりをしていく必要があると思います。特に子どもたちが働かなくなってしまうように、途上国でも義務教育にして、木んたちの将来をアッパせることができれば、もっとより良い環境になると思います。実現させるのは難しいかもしれませんが、ですが、私たち先進国の人たちが協力すれば、不可能ではないと思います。世界中の人たちが安心して働いて食べて寝ることができるよう日をおんなで作り上げていこう。



三〇 感想 ー

私たちは、取材をするために、フードバンク高知様を伺いました。その際、二ホウニテツの環境として、子ども食糧の献金などをさせていただいています。その中で、色々なお話を聞くことができ、自分の知識を、つぎの世代に伝えることができました。

私が印象に残っているお話は、今の時代、見た目の数字は重要になっていくことがわかってきたこと、ということだと思います。誰かが買ってくれず、このものが売れないと、深く入り込まないと分からなくなるといふのは、助けたいことも助けられなくなることにつながります。データの数よりも実際はもっと多いために、かと思えます。そして、日本でも貧困に苦しんでいる人がいるので、世界がかりに目を向けていく良いのかもしれない疑問も出てきました。もちろん世界の現状を知ることが大切ですが、自国の現状を知ることが先だと意味がないと思えます。日本の問題が解決できれば、それを活用して世界の問題を解決した方がよいと思えます。

日本も世界もまだまだ知らないことが多く、少しづつ見えていくなりに部分を明らかにしていきたいです。

感想

はじめは話しを聞きにくい「だけ」の活動予定でしたが、子ども食堂の手伝いもさせていただけのことになりました。

（世界の飢餓と何の関係があるのだろう）と思っていました。しかし、出来上がったご飯を渡していく中で、見えてきたものがありました。それは表面だけで何も分からないという事です。今は、食べ物に困っている人もちゃんと身なりを整えています。だから、判断をすることが難しいのです。飢餓について調べる前は、「ご飯を食べることが困難なだけ」と思っていました。しかし、調べていくことで明らかになっていく原因と現状。飢餓という言葉からは分からない真実が見えてきたのです。

言葉を知ることは簡単ですが、その言葉や出来事を知ることが何よりも難しいのだと私は思いました。